

一 問一 才

問二 吉岡さんは優しいという、自分が心の底から思っていることを必死に伝えようとしていたら、涙が出そうになったため、それをこらえているから。

問三 ア

問四 鈴木さんは、どんな場所でもうまく適応して生きていくことができるところがアメンボに似ているということ。

問五

吉岡さんの言葉で、いつも相手に合わせている自分の性格は、どんな場所でも生きていける長所だと気づき、自分の居場所は今いるところだけではないと思えたということ。

問六 ウ

問七 ア ○ イ × ウ × エ ○

二 問一 I 結末に至る

II ア × イ × ウ ○ エ ○

問二 自分の心の声を引き出しながら「考える」

問三 ア

問四 私は、中学生になった主人公が、自分の好きなことを見つけていく物語を読みました。

新しい自分を見いだしていく主人公の姿に、中学校生活を楽しみにしている自分が重なりました。また、情景描写に注目して丁寧に読むことで、新しい生活への期待がふくらんでいく主人公の様子や心情がよくわかりました。

この体験から、「遅読」は自分の経験と本の内容を結び付けて考えたり、新たな視点に気づくことができる読み方だと考えます。

三 ①節句 ②警告 ③清潔 ④敬(う) ⑤はいしやく